

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL  
MUSEUM OF HISTORY

# れきはく

No.132  
2020.1.22

企画展

# REKI HAKU

## COLLECTION

# 2019

れきはくコレクション2019

令和2年

2/1 sat 土 ~  
3/15 sun 日

会期中  
無休

壁土細工菊文様付短冊箱

# REKIHAKU COLLECTION 2019

れきはくコレクション2019

令和  
2年2/1 **sat** 土 ~ 3/15 **sun** 日会期中  
無休

9:00~17:00

展示室への入室は  
16:30まで

会場

石川県立歴史博物館  
企画展示室

展示解説

令和2年2月29日(土)  
13:30~14:30

観覧料必要 / 申込不要

観覧料

| 一般300円(240円) | 大学生240円(190円) | 高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金、65歳以上は団体料金、上記の料金で常設展もあわせてご覧いただけます

石川県立歴史博物館では、石川県の歴史と文化に関わる資料を体系的に収集しています。2019年には、一覧表のとおり、寄附や購入で3277点の資料を新たに収蔵することができました。購入の1点を除く全ての資料は、県内外から皆様のご好意によりご寄附いただいたものです。この企画展では、ご寄附に対する感謝の意を表して、2019年の新収蔵品をお披露目します。

ここでは、展示品のなかで、特に注目される資料をご紹介します。

## 【2019年新収蔵資料一覧(受入順、敬称略)】

資料名	点数	寄贈者	資料名	点数	寄贈者	資料名	点数	寄贈者
人物花木鳥獣図色紙貼交幅	2	北原陽一	鎌倉塗蘇鉄葉形に紅葉の大盆	1	宮腰幸男	石谷文夫採集考古資料	2370	石谷克人
山陵志	1	小嶋芳孝	鴛鴦の大盆	1	〃	第2回国民体育大会ポスター	1	林 恵一
聖蹟図志	1	〃	軒行灯(行灯型看板)	1	石黒 亘	吉川悦陽写真資料	891	吉川真樹子
山陵考略	1	〃	杉松楼閣海に舞鶴文様打掛	1	堀江壽枝	ツルカメ	1組	吉岡公次
鎌倉塗菊の高杯	1	宮腰幸男	菊に桐鳳凰文様打掛	1	〃	壁土細工菊文様付短冊箱	1	(購入)
鎌倉塗蓮の大盆	1	〃	菊に松鳳凰文様振袖	1	〃			

## かべつちざい くきくもんようつきたんざくほこ 壁土細工菊文様付短冊箱

蓋の上面に壁土(漆喰)細工が施された漆塗りの短冊箱で、コテを使って菊の花が立体的に表現されています。漆喰で細工が施された漆工品は極めて珍しく、江戸時代後期における加賀藩の工芸技術の高さを示す作例です。これを収納する外箱は藩主前田家や上級家臣家に伝わるものと類似しており、蓋に「短冊はこ 生土さいく」の墨書があります。昨年度、当館が入手した壁土細工の硯箱(石川れきはくNo.128で紹介)も同じ技法で作られ、その作者は加賀藩の御壁塗(左官)の堀越左源太です。これとよく似た本品も、同じ人物によって作られた可能性があります。





じん ぶつ か ぼくちゆう じゆう ず しき し かり まぜ ふく  
**人物花木鳥獸図色紙貼交幅**

筆者の<sup>しせい せい さい</sup>岸井静斎(1826~1893年)は加賀藩<sup>かち</sup>の歩で、岸派<sup>さい えん</sup>の森西園<sup>さん さい うえん</sup>に学<sup>が</sup>び、岸駒<sup>が む</sup>や池大雅<sup>いけの たい が</sup>の画風も慕<sup>が</sup>って絵を描きました。この掛軸は、1880(明治13)年頃に静斎が父の80歳を祝<sup>いわ</sup>って描いた寿画で、長寿の象徴である鶴<sup>れい き</sup>・靈亀<sup>せい こん</sup>・千角鹿<sup>せん かく ちかく</sup>などが色紙に描かれています。もとは24枚の色紙を1幅にしていたましたが、後に静斎の孫が4枚ずつを貼った6幅に改装し、5人の子に分け与えました。ご寄附いただいたのは、そのうちの2幅にあたります。



鎌倉塗 菊の高杯



鎌倉塗 蓮の大盆



鎌倉塗 蘇鉄葉形に紅葉の大盆



おしどり 鶺鴒の大盆

く ろう ざく  
**村上九郎作の作品**

村上九郎作(1867~1919年)は小松出身の彫刻家で、1890(明治23)年に内国勸業博覧会へ出品した作品が高く評価され、石川県工業学校(現、県立工業高校)彫刻科の教師を務めました。富山県工芸学校の教員を経て、1900(明治33)年に山中商会(大阪の美術商社)の指導師範に就任し、輸出用工芸品の制作を指揮しました。

鎌倉塗の菊の高杯・蓮の大盆・蘇鉄葉形に紅葉の大盆、鶺鴒の大盆の4点は、村上九郎作が1898~1900(明治31~33)年頃に金沢の工房で制作した一連の作品とみられます。いずれもヨーロッパのアル・ヌーヴォー様式が取り入れられた秀作で、欄間彫刻の熟達した鎌倉彫風の技術に加え、万博への出品や渡米経験などの広い視野を生かした造形が発揮されています。

紙面では一部の資料しかご紹介できませんでしたが、その他にも多くの貴重な資料のご寄附を賜りました。志賀町で多くの重要な遺跡を発見・調査した石谷 文夫氏の考古資料、終戦直後の1947(昭和22)年に石川県で開催された第2回国民体育大会のポスター、婚礼の際に使用された打掛・振袖や藁細工のツルカメなど、美術・歴史・考古・民俗の各分野にわたる多彩な資料を新たに収蔵することができました。

最後になりましたが、貴重な資料をご寄附いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

第2回 国民体育大会 ポスター



縄文土器 (石谷文夫採集 考古資料)



杉松楼閣海に舞鶴文様打掛

## 学芸員コラム

Column

# 金沢おでんの歴史を味わう

学芸課長 大門 哲

金沢おでんが一躍有名になったきっかけは2009年にNHKの番組で、人口比に対するおでん店数が日本一と紹介されたことによる。以来、メディアで盛んに取り上げられるようになった。

しかし一度も紹介されていないのがその歴史。真冬にふさわしい話題になればということで金沢おでんの歴史を紹介しよう。系譜をたどれば田楽にたどりつくが、紙幅の関係で煮込みおでんの段階から始める。

金沢で煮込みおでんが食されるのは明治末あたり。まずは祝賀イベントの模擬店で提供された。背景には東京でのおでんの流行がある。明治41年『小資本営業の秘訣』によれば東京では「おでん爛」を掲げた屋台をみない通りはないというほどだったという。

当時のおでんは東京人の好みの影響から醤油が強く、煮込まれた具は黒ずんでいた。出汁で煮た薄味のおでんが普及するのは大正の後半。宮本又次『大阪の風俗』によれば、東京のおでんが関西に入ってきた際、関東煮と呼び、口に合うように出汁で煮込み、あとから醤油をつけて食べる工夫が加えられたという。薄味が全国に広まるきっかけは関東大震災。炊き出しのために関西風のおでんを逆輸入したところ人気を見たという。

金沢でおでん店が目立つようになるのも震災後から。大正12年11月、千日町に「元祖おでん」の看板をかかげる店が登場。「元祖」という惹句からすでに複数の店が集客を競っていたとわかる。

昭和2年頃には10数軒に増加。「おでん」の三文字だけではもはや人が呼べなかったのか、冷やしおでん・味噌おでん・東京式かんとんだきなど、各店は看板の差別化をはかるようになる。このような競合のなか、昭和6年頃、人気を集めたのが万直し・江戸銀・二銭カツ・赤瓢箪・たこ梅。たこ梅は現在、日本最古のおでん屋をうたう大阪有名店と同名である。金沢おでんの味は大阪が源流なのである。

各店のなかでとりわけ有名だったのが万直し。これも大阪発祥。コックと呼ぶ洋装の男性店員がカウン

ター越しに並んで接客にあたった。店の場所は西茶屋町の川岸。付近の住人に往時を尋ねると、戦後も川岸に多くのおでん店が並んでいたという。おでんで一杯ひっかけてからが芸者遊びの定番コースだったのだろう。ちなみに万直しの味は現在富



▲万直し広告 昭和8年『金沢新風景』  
小松砂丘デザインか

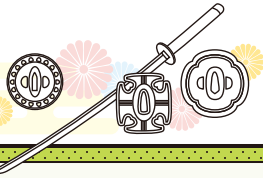
山県で味わえる(WEB参照)。

おでん人気を受け食堂や百貨店も名物として売り出すようになる。武蔵が辻の三越百貨店食堂で提供したところ階級を超え人気を集めた。近くの青駒は地下食堂におでん屋台を、一九食堂はおでんホールを設置。森八の食堂部では「加賀おでん」を販売した。

大正後期から昭和初期、金沢は一大おでんブームを迎えたのである。ブームの背景はなにか。第一に消費層の変質があった。单身生活の学生・労働者や小家族の増加と女性の社会進出により、気軽に外食を楽しむ習慣がひろがった。第二に不景気による消費欲の変化があった。当時の流行語のひとつはスピード。安価なものを効率的に柔軟に消費できることを人々はもとめたのである。

二つの背景は今につながる食の風景をつぎつぎと生み出していく。見知らぬ人との相席、一合余りの白飯と総菜を組み合わせせた定食、和洋中をそろえた多国籍料理店、そして、注文すればすぐに熱々のまま出てくるおでん。おでんブームが物語るのは外食をめぐる欲望の劇的な変質なのである。だからこう歴史的な評価ができる。金沢おでんは食の近代化遺産であると。





# 教育プログラム

Educational Program

楽しく学べる企画を  
ご用意しています!

## つば 秋季特別展 関連ワークショップ 「刀の鍔でコースターを作る!」

当館では、今年度も複数のワークショップを行いました。その中で今回は秋季特別展関連イベント「刀の鍔でコースターを作る」を紹介します。

作業自体は玩具のアイロンビーズを使って刀の鍔の形をしたコースターを作成する、とても簡単なものです。ただ、一人30~40分の時間がかかるということで、今回は秋のミュージアムウィーク期間中の土日祝日5日間限定とさせて頂きました。しかし、期間限定にもかかわらず5日間で150名もの参加者がありました。参加された皆さん本当にありがとうございました。そして、参加者が一度に集中したため、途中でビーズが不足し、好みの色が足りなかった皆さん、本当に申し訳ありませんでした。

さて、作業工程を順番に解説すると、まず作成したい刀の鍔を見本の写真や図録から選びます。次にビーズを並べるための専用の透明プレートはその写真の上に置きます。続いて、そのプレート上に自分の好みの色のビーズを並べていきます。ただ、ビーズ自体が5ミリと非常に小さいため、手を使って並べていくと先に並べたビーズに自分の手が触れ、プレートから外れてしまうので、参加された皆さんとても苦労されていたようでした。どうも、用意されたピンセットを使って並べていくのがコツだったようです。そして、並べ終わった作品にアイロンで熱を加え、プレート

から作品をはがして完成となります。

当初、アイロンがけまで参加者の皆さんに行ってもらおう予定でしたが、実はリハーサルでアイロンペーパーを先にのせるのを忘れ、直にアイロンをかけてしまったことがありました。結果、アイロンからビーズが取れなくなり作品自体も歪んでしまいました。そのため、その教訓を生かしアイロンをかけるのは専属のスタッフが行うことにしました。せっかく苦労して並べたのに悲しい思いのまま、皆さんに帰って欲しくなかったからです。

最後に、出来上がった作品はどれも個性的なものばかりですべてを紹介しきれないのがとても残念です。

(普及課長 永井 浩)



ビーズを  
並べて...

仕上げに  
アイロン



## 催し物案内

### Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。  
(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

**2月** \*2月は毎日開館  
(休館日はありません)

**15日 (土)** れきはくゼミナール  
戦後の村芝居と地役者  
講師: 大井 理恵 (学芸主任)

**19日 (水)** 第1回 古文書講座(後期)  
加賀藩士の古文書を読む—青山家文書—  
講師: 塩崎 久代 (学芸主任)

**21日 (金)** 学芸員によるワンポイント解説  
金沢町人の暮らしと文化  
講師: 塩崎 久代 (学芸主任)

**3月** \*3月の休館日  
3/16(月)・3/17(火)

**4日 (水)** 第2回 古文書講座(後期)  
加賀藩士の古文書を読む—青山家文書—  
講師: 塩崎 久代 (学芸主任)

**14日 (土)** れきはくゼミナール  
謎の豪族羽咋君  
講師: 永井 浩 (普及課長)

**18日 (水)** 第3回 古文書講座(後期)  
加賀藩士の古文書を読む—青山家文書—  
講師: 塩崎 久代 (学芸主任)

**21日 (土)** れきはくゼミナール  
北前船交易とアイヌ文化  
講師: 戸潤 幹夫 (学芸主幹)

**27日 (金)** 学芸員によるワンポイント解説  
墨書土器と木簡  
講師: 永井 浩 (普及課長)

### 学芸員によるワンポイント解説

要観覧料/申込不要 全11回

時間 13:30~14:00 場所 展示室  
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

### れきはくゼミナール

受講無料/申込不要 全11回

時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム  
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は月2回)

### 古文書講座

受講無料/要申込 前期5回・後期3回

時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム  
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。

### いしかわ県民大学校 歴史講座

要受講料/要申込 全10回

日時 11月~1月の水曜日  
13:30~15:30

Topics

## トピックス ✨

歴史博物館注目のニュースをご紹介します!

2019  
11/17日~12/15日

企画展

### 珠洲古陶 -その歴史と美-



吉岡康輔氏による記念講演会  
「王朝の美・秋草文壺の世界」2019.11.17

今年2020年夏、石川県立美術館といしかわ赤レンガミュージアムの間に国立工芸館が開館します。

かつて旧陸軍の第九師団司令部庁舎と金沢借行社(いずれも国の登録有形文化財)として建てられた近代建築を活用した展示施設として、本多の森公園の新たな魅力となりそうです。

さて、この国立工芸館開館に向けて、昨年末に当館と県立美術館を会場に「時代で巡るいしかわの工芸展」が開催されました。当館の企画展「珠洲古陶-その歴史と美-」では、昨年開館30周年を迎えた珠洲焼資料館の所蔵品に加え、愛知県陶磁美術館所蔵の五輪小塔など県外に伝わる名品や現代作家の作品を展示し、中世能登で栄えた珠洲焼生産の歴史と美の世界をご紹介します。珠洲焼は平安時代末期に誕生して以来、様々な用途で用いられ、北は北海道まで流通しましたが、戦国時代に忽然と姿を消します。来館者は珠洲焼の独特の色や形、装飾性豊かな文様をじっくり鑑賞されていました。

令和2年度

## れきはくメイト会員募集のお知らせ

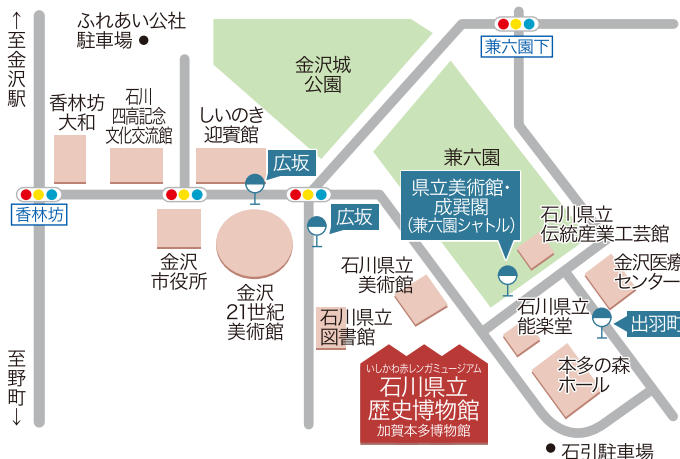
当館の友の会「れきはくメイト」(※会費1500円)にご入会いただくと、以下のような特典があります。新規のお申し込み・更新手続きは2月1日より当館の案内カウンター(第1棟1階)にて承ります。歴史が好きで何度も博物館を訪れたい方、各種イベントを通じて石川の歴史をより詳しく学びたい方にオススメです。 ※学生および10月以降にお申し込みの方は750円

特典例

- 1 会員証提示により、当館の常設展を無料でご覧いただけます。
- 2 当館が主催する「歴史散歩」等にご参加いただけます。
- 3 当館の最新情報を「メイト情報」等にて随時ご案内いたします。
- 4 特別展の開会式を行う場合は、開会式招待券をお送りします。
- 5 会員証提示により、当館オリジナルグッズを10%割引で購入できます。



歴史散歩の様子(平岡野神社)  
2019.10.10



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館  
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1  
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836  
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp  
http://ishikawa-rekihaku.jp/



石川県立歴史博物館 広告

「石川 れきはく」

に広告を掲載して PR サービス・集客 しませんか?

れきはくメイト(友の会)会員、学校、博物館、図書館、その他公共施設へ **配布!!**

ターゲットを狙った  
知名度向上

石川県立歴史博物館の  
信頼度の高い  
広報媒体

お問い合わせは 株式会社ホープ ☎092-716-1401  
福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索